

## ブレード・サーバーをBladeCenter シャーシから取り外す際の考慮点について

BladeCenter Open Fabric Manager (以下、BOFM)機能を使用しているBladeCenterにおいて、ブレード・サーバーをBladeCenter シャーシから取り外す際は、ブレード・サーバーの電源オフ後、数分待ってから行ってください。

### 【事象】

BladeCenter Open Fabric Manager (BOFM) 設定 が有効な環境下で、ブレード・サーバーの電源オフ後にすぐに取り外した場合、下記に記載するような事象が発生する可能性があります。

– ブレード・サーバーがBOFMをサポートしているにも関わらず、Advanced Management Module (AMM) のイベントログに次のメッセージが記録される。

FW/BIOS for blade x does not support Open Fabric Manager

– ブレード・サーバーを取り外した後、別のBOFM構成が設定されている別のスロットへ移動する、あるいは引き抜いた該当スロットにおいてBOFM構成を変更したり、削除しても、以前使用していたBOFM仮想アドレスを保持した状態で起動する。

### 【対象構成】

BladeCenter E, 8677 タイプ, 全モデル

BladeCenter H, 8852 タイプ, 全モデル

BladeCenter S, 8886 タイプ, 全モデル

※この情報は、特定のソフトウェア構成やオプション構成に限定されません。次のAMMファームウェア・レベルを持つBladeCenterが対象となります。

AMM ファームウェア 3.62 シリーズ

### 【回避策】

BOFM設定が有効な環境下では、ブレード・サーバーの電源オフ後、数分待ってから取り外すことを強く推奨します。

これはAMM Firmware 3.62 シリーズにおける仕様になります。

### 【追加情報】

AMM 3.62 シリーズでは、ブレード・サーバーの電源オフ後に、BOFMの仮想アドレスを削除するためのプロセスがバックグラウンドで動きます。完了には数分掛かるため、このプロセスの動作中にブレード・サーバーを取り外すと、上記に記載した事象が発生する可能性があります。

例えば、プロセス動作中に取り外したブレード・サーバーを他のスロットに移動した場合、移動後のスロット用の正しいBOFM仮想アドレスでなく、移動前のBOFM仮想アドレスで起動する可能性があります。

このような事象が発生した際には、以下の手順に従って、移動後のスロット用のBOFM構成を一旦無

効にした後で、BOFM構成を再度適用してください。

1. 'BOFM.csv' ファイルを編集し、問題が発生しているブレード・サーバーのスロットを、'enable' から 'disable' へ変更します。
2. AMM webコンソールからBOFM構成を適用します。:  
Blade Tasks -> Open Fabric manager -> Apply a configuration
3. 問題が発生しているブレード・サーバーのUnified Extensible Firmware Interface (以下、UEFI) Setup画面を起動します。
4. ブレード・サーバーに搭載されているアダプターが物理アドレスを持っていることを確認してから、電源オフします。
5. 'BOFM.csv' ファイルを編集して、ステップ1. で変更したスロットを、'enable' へ戻します。
6. AMM webコンソールからBOFM構成を適用します。:  
Blade Tasks -> Open Fabric manager -> Apply a configuration
7. 対象ブレード・サーバーでUnified Extensible Firmware Interface (UEFI) Setup画面を起動します。
8. ブレード・サーバーに搭載されているアダプターが正しい仮想アドレスを持っていることを確認します。

**【原文】**

RETAIN tip: H207902 Need to wait for several minutes before removal of blade - IBM BladeCenter  
<http://www.ibm.com/support/entry/portal/docdisplay?brand=5000008&ln docid=MIGR-5092807>

以上